

道岳連だより

広報 NO.68
平成25年4月15日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

北海道の3選手ワールドカップ日本代表候補に

第8回ボルダリング・ジャパンカップ

日本山岳協会が主催する第8回ボルダリング・ジャパンカップ東京大会は、平成25年2月23-24日の両日にわたり、東京都駒沢オリンピック公園屋内球技場で開催された。北海道からエントリーした男女6選手の成績は、男子 杉本 玲選手4位、一安敏文選手59位、菅原宏介選手63位。女子 小武芽生選手6位、萩原亜咲選手7位、一安瑛子選手24位。ワールドカップ日本代表候補は今大会男子12位まで、女子8位までとなっており、杉本、小武、萩原の3選手が日本代表候補の権利を手中に収めた。



決勝ラウンドの萩原選手の奮闘（左側）



4位入賞の杉本選手（右から三人目）

クライミングは2020年オリンピック追加競技種目候補の一つになっており、近年はワールドカップや世界選手権での日本選手の活躍はめざましいものがあり、注目を集める競技になってきた。その国内での頂点を競う本大会は、2013年ワールドカップの日本代表候補選考会を兼ねていることもあり、2012年ワールドカップ年間総合優勝（リード）を達成した安間佐千や、本大会8連覇を狙う野口啓代を筆頭に、国内のトップクライマーが勢ぞろいし、男子100名、女子49名、計149名で競技が行われた。

北海道からは、国体ボルダリングで優勝経験のある杉本 玲、萩原亜咲、一安瑛子の3選手をはじめ、男子3名、女子3名の計6名がエントリーした。北海道選手の活躍の中でも特筆されるのは、

中学3年生の小武選手の6位であろう。準決勝の5位から惜しくも1つ順位を落としてしまったものの、ユース選手(1996年～2000年生まれの世代)の中でただ一人の決勝進出者である。この一年、一安敏文選手や萩原選手などからコーチを受けながら、人一倍の練習を積み重ねてきたその成果とも言えるだろう。小武選手はまだまだ成長過程にあり、今後がますます楽しみである。

なお、全選手の最終成績の詳細は日本山岳協会、日本フリークライミング協会のホームページを参照願いたい。
(報告 競技委員長 山納 秀俊)

行事・各委員会事業報告

第3回理事会 3/17 札幌市民ホール

平成24年度第3回理事会は、3月17日(日)午前10時30分より札幌市民ホールで47名の理事が出席して開催された。

小野会長は冒頭のあいさつで、創立60周年事業及び道岳連事業執行に対する会員の協力に謝意を表し、特筆すべき成果として国体における連年の活躍を上げた。道岳連の現状として傘下山岳会の会員減少や会の解散などが依然として続いている一方で、クライミングやトレランの団体が新規加入をするという明るい話題もある。また、山岳遭難対策をテーマとする研修会等には、山岳団体や登山愛好者のみではなく、多様な団体や人が集まるようになっており、日山協も公益法人化で組織された登山者以外の人々への対応が一層求められることから、これらにどう対応するかが道岳連にも求められると訴えた。

神山理事長は平成24年度を総括し、前年度の反省が改善されたもの、改善されなかったものが相半ばした。とし、平成25年度へ向けて ①傘下各山岳団体との連携をより緊密にすると同時に、山岳団体同士の交流を促す ②山岳指導員の活用をより拡大する ③連盟事業のより一層の充実と、安全登山の普及徹底を図る ④道岳連収入の増加を図る(連盟収入がここ数年ジリ貧状態であり、将来が不安) ⑤個人加入の具体的な検討を行うべき時期に来ている ⑥3回実施した「トレラン」について、道岳連の組織としての正式な位置づけを図りたい ⑦来年度交流登山会は、執行部が各山岳会の支援で実施する方向を検討をあげた。

今回の理事会に提案された議件は、1号議案 平成24年度事業(経過)報告について 2号議案 平成24年度各会計収支(中間)報告について 3号議案 平成25年度事業計画(案)について 4号議案 平成25年度各会計収支予算(案) 5号議案 北海道山岳連盟加入申請承認について 6号議案 諸般の報告等についての6案件で、今理事会の審議確認を経て5月定期総会に提案される。

新規加入申請団体は、平成25年1月24日申請の北海道フリークライミング協会

(一安敏文代表 14名)と同年3月17日申請の北海道トレイルランニング協会(武田渉代表 10名)の二団体で、いずれも加入が承認となった。

また、創立60周年記念事業で制作された「北海道の山スキーDVD」の3月15日現在の収支明



細の提示があり、制作枚数 100 枚のうち売上数が 853 枚、P R 等配布が 46 枚で、残数が 101 枚と好調な販売実績が報告された。

山岳スキー指導者研修会 12/22-23 札幌国際スキー場他

2013 冬山シーズンの幕開けとなる山岳スキー指導者研修会が、初心者及び中級山岳スキーヤー研修会を兼ね、12 月 22 日(土)から 23 日(日)札幌国際スキー場及び白井岳を会場に実施しました。初心者からベテラン指導者まで 31 名が参加しました。天気は良くて、気がかりな二日間の天気も登山日よりとなりました。

初日の講習会は、札幌国際スキー場にて五つのグループに分けて ①【ベーシックテクニック】プルーク・ショートターン・ロングターン ②パウダー滑走 基礎スキーを中心に、みっちり滑走しました。宿泊は定山溪温泉で、冷えた身体を思いっきり熱い温泉で疲れを癒しました。

夜の講義は、北海道山岳連盟 60 周年記念事業で制作した DVD「北海道の山スキー」を教材としてパウダー滑走を学びました。また、S A J 指導員から最新のスキーテクニックが紹介されました。



二日目は白井岳に実践山スキー登山。DVD「北海道の山スキー」付録で（パウダースキーベスト 20）で紹介された、朝里岳沢コースを筆者である札幌山の会 西嶋さんのガイドで出発しました。一見すると深い雪に覆われた沢ですが、渡渉するにはまだまだ雪が足りなく、大きく高巻いて渡渉しました。その後は順調に全員が深雪ラッセルをで、山頂直下の目的地に到着。早速、各班リーダーからレクチャーを受け、滑走準備を整え目の前に広がるパウダー斜面にスタートしました。参加者の皆さんは、グループごとにまとまりながら滑走して、全員無事に登山口に戻ってきました。

(報告 山岳スキー運営委員会)

山岳スキー指導者研修会&初心者及初・中級スキーヤー研修会に参加して

ロビニア山岳会 神野 恵子

12 月 22 日 23 日とで行われた研修会のうち、23 日の白井岳の山行に参加させていただきました。私にとって今年初の冬山スキー登山でした。

白井岳は初めに川を渡らなければならないのですが、今年は豪雪とはいえまだ 12 月、本来なら渡れる所にまだ雪がありませんでした。しかし、さすが指導員級の集団です、それぞれが頭の中の地図と山の状態から判断したルートが選択され、無事川を越えることができました。

登っている時には皆さん「膝が痛いからダメだ」とか「疲れたなあ 滑る体力残ってないわー」などと、失礼ながら私とさほど違わない感じを臭わせて安心させておきながら、滑り出したら啞然としました！さっきまでの平凡そうな皆さんは何処に！？私はまだまだ初心者なので、自分でコース取りすることが苦手なのです。大体大きく安定して滑っている先輩のシュプールをなぞる様にして滑って行くことが多いのですが… 皆さんショートターンやらベンディングターンやらで「ササササーッ」と視界から消えていくではありませんか。



北海道山岳連盟創立 60 周年制作DVD「北海道の山スキー」の中に迷い込んだ様な風景でした。私も早く皆さんの様に「ササササーッ」と滑れる様になりたい！と強く思いました。今回もたくさんの方に気にかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。中でもずっと後ろについて下さって、危険な箇所では一步一步を見守って下さり、手を貸して下さいの方が会長さんだったことに後でびっくりしたのでした。

山岳スキー技術講習会 1/26-2 富良野スキー場・三段山

2013山岳スキー技術講習会が1月26日(土)から27日(日)にパウダー舞う富良野スキー場及び十勝連峰三段山山城にて行われ、道内各地から10団体21名の山岳スキーヤーが参加しました。

初日は富良野スキー場にてA班、B班に分かれてプルークターン、ショートターンなど基礎スキーをみっちり滑りました。特に【谷廻りターン】の練習では熱が入りました。

宿舎の白銀荘にて冷えた体を思いっきり熱い温泉に浸かり疲れを癒しました。夜の講義は雪崩対策、昨年末の三段山雪崩事故を検証しました。そして、交流会では全員の滑走ビデオを上映。あわせてDVD「北海道の山スキー」も上映、他の団体メンバーも加わり鑑賞しました。

二日目は三段山に実践登山。昨日からの降りしきる雪の中で深雪ラッセル。二段目の雪崩事故箇所では、弱層テストをして手首で崩れる危険箇所を確認しました。

吹雪はますます強くなり、視界不良で、これ以上は進まないで、昨年の検定斜面に移動して深雪滑走を堪能しました。

パウダーは胸までくる滑走で、皆さん存分にパウダーランを楽しみました



(報告 山岳スキー運営委員会)

吹上温泉保養センター白銀荘前での参加者

山岳スキー技術講習会に参加して

札幌山の会 出江 俊夫

「山岳スキー」の研修会・講習会に参加するのは、昨年12月の札幌国際スキー場・白井岳での研修会について二回目となる。毎回、目からうろこの思いで帰ってくる。

初日は富良野スキー場のゲレンデでの基礎技術、翌日は三段山での実技講習それぞれ、なかなか充実した内容であった。

これまで、数十年前のスキー技術（といってもそれほどちゃんとしたものではないが…）と我流の山スキーで過ごしてきた私としては、初日富良野スキー場のゲレンデでスキーの動作を一つひとつ確認する作業はまさに修行のようなものであったが…… 実にこれが楽しかった。

指導の目指すところは、最近の“カービングスキーの特性”を生かした“効率の良い滑り”で、これは山での深雪などの滑りに通ずるとのこと。太板だ、TLTなどと普段道具に頼っている割には、そのあたりのところが押さえられていなかったと改めて反省するところ。指導はとても丁寧でありがたかったが、頭ではなんとなくわかっていても体がついていけないところが問題。（夜の座学で各自の動画を写し指導いただいたが、イメージが体現できていないのがよくわかった）まあ、あとは練習あるのみでしょうか。



深雪のラッセル



雪崩事故現場で弱層テスト

二日目の三段山での実技講習は、検定を視野に入れたキックターンやハンドテストなどの技術指導を受けながらの二段目まで上がる。あいにくの雪模様のため、行程が少し短くなったのが残念であったが、二段目を回り込んだ“検定斜面？”と“一段目”の斜面はしっかりと滑ることができた。やっぱり山は良い、楽しんで滑っているとリーダーのF木さんに「昨日の分挽回ですね」と一言。でも、昨日教わったことを実践できたかは、少し怪しいところ。最後に講師の方に「滑り方が柔らかくなりましたよ」と言ってもらい一安心。ちょっと得した気分になった。欲を言えば、今回せっかく講師・スタッフに山スキーの達人の皆さんが集まられているのに、山での時間が少なく山での滑りを直接指導してもらう時間がほとんどなかったことは、少しもったいない感じであった。

また、今回の参加者は自分も含めオールドスキーヤーが多く（先輩の皆様はとてもお元気でしたが…）、次に続く若手の参加が少なかったのは残念であった。せっかくの機会をもっと多くの人に活用されればと思うところ。何かいい方法があればよいのですが…

最後に、充実した研修を企画・実行していただいた講師の皆様、また、支えてくださったスタッフの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

2013 山岳スキー技術講習検定会 2/23-24 日勝峠周辺

残念ながら、皆様(受験生)はOO・・・

報告 藤木 たか子



2013 山岳スキー検定会が日勝峠周辺で実施されました。23 日当日の天候は晴れではあるが、やはり日勝は風が強い。受験生全員が揃ったところで各受験コースに分かれての行動に移動開始。堀ゲレンデにて明日の検定科目に検定員の指導の下真剣な様子。リーダー8名、準指導員

2名・指導員1名の11名による明日に向かって「火ぶた」がおとされました。

緩斜面での基礎スキーを何回ものシール付替え等、自分もこの様な事をしてきたのかと思いながらシャッターを。15時過ぎに国立日高少年自然の家へ移動し、18時30分より検定会の第1ラウンドの筆記試験のゴングが。その後は山談義に入り、22時には就寝。

翌24日は熊見山稜線に上がり1150mより下降した斜面にて、第2ラウンドが行われ、時すでに11時ジャスト。「サアア」検定開始。緊張感が全員に。一番Aさんから検定項目を。検定員3名により着々と進行している。最終滑走が終了したのは13時過ぎ。1150m稜線に上がり記念撮影。昼食も手つかずのままでお疲れ様でした。神経が「ヘタヘタ」という受験者。

無事駐車場にて検定委員の可否会議。皆さん集合し、検定結果が主任検定員より発表され、「残念ながら全員合格」皆さんおめでとうございます。でもこれはあくまで実技での合格。第3ラウンドの筆記試験の可否があつての総合合格。あとのお楽しみで締めくくりました。

今回感じたことは、指導員・準指導員・リーダーを受験する人が、冬山山行における一般知識・技術・指導を各会で充分浸透してほしい。そして「決して甘くはない」と、以前と比べ痛感いたしました。さらなる1ランクをチャレンジしてください。

冬山講習会・I 2/2-3 ニセコ会場

2月2日(土)～3日(日)、道岳連の「冬山講習会第一弾」(ニセコ)は、参加者15人、指導員4人の19名の参加で実施しました。

2日は、強い低気圧により朝から雨が降り、折角のパウダーも台無し。9時30分、チセヌプリスキー場2階休憩所に集合し開講。この頃から雨は止み、この日午前中はシール登行、ラッセル、方向転換、スノーシュー、地図読み、コンパスの使い方、ビーコン捜索などを行う。

午後からは、山スキーの滑り方を中心におこない、16時からは宿舎の雪秩父にて机上講習。夕食後の懇親会には、今年度制作の「北海道の山スキー」DVD鑑賞、パウダーの滑り方を勉強していただきました。この時、同じ雪秩父に宿泊していた「東京都山岳連盟」山スキーのメンバー5人の訪問があり、一緒にDVD鑑賞し大いに盛り上がりました。(DVD1本買っていただきました)

3日は、猛吹雪となったためチセヌプリ登山は中止し、風当たりの少ないスキー場東斜面を登り、昨夜から降り積もったパウダー滑りを楽しみました。

参加者の多くは「パウダーを上手く滑りたい」とDVDを購入し講習会に参加した人達、意欲は

みなぎっていたものの、天候が悪くては如何ともし難く、冬山の厳しさを存分に味わった二日間であった。それでも皆さん満面の笑みのうちに閉講・解散となりました。

(報告 普及委員会委員長 荒堀 英雄)



宿舎でDVD鑑賞



荒天のチセヌプリ山麓を滑走

冬山講習会・II 3/2-3 日高会場

どうも普及委員会事業は天候に恵まれない模様である。2月2-3日に行われた「ニセコ会場」の冬山講習会は雨と暴風雪に見舞われたので、3月2-3日の日高会場は好天が期待されたが、再び強い低気圧により大荒れの天気となった。この講習会は、冬山経験の少ない初級・中級レベルに照準をおいて企画されたが、参加者は上級者も含めて23名となった。アルペン初級・中級、アルペン上級、テレマークスキー、スノーシューと4班に分け、冬山共通の地図読み、コンパス操作、ビーコン操作などのほか、班ごと用具の特性を生かした講習を行った。

講習会開始時にはそれほどでもなかった天気は、終了時には風速20mほどの暴風雪になっていた。講習は樹林帯で行ったので、大荒れとは感じられなかったが、駐車場に近づくにつれて猛烈な風と雪、慣れない参加者は凍傷の危機を味わったようである。

宿舎に着いて「冬山の装備、地図読み、ベアリング、雪崩の基礎知識」などの机上講習を行い、冬山の厳しさを再認識した。夕食後の懇親会では、今年度制作の「北海道の山スキー」DVDを鑑賞し、パウダーの滑り方を学習していただいた。(この日は3本のDVDを購入いただいた)

3日は、猛吹雪は止んでいたが10mを超える風の中、熊見稜線上の1150mピークへ、稜線から十勝側へ少し下っただけで風はピタリと治まる。十勝の日差しを受け暫しの休憩。スノーシュー班は熊見山を断念し稜線を下った。スキー班は十勝平野を眺めながら滑り降りる。深く若干重い雪に悩まされたが爽やかなダウンヒルが実現した。

普及委員会ではこの企画の成功を期してバスをチャーターしたので、リッチな講習会となった。天候に恵まれなかった冬山講習会だが、冬山の厳しさ・現実を体現されたことは大きな成果と言える。

最後に全員で記念撮影をし散会した。

(報告 普及委員会委員長 荒堀 英雄)



日高会場参加者

氷壁講習会 1/19-20 層雲峡銀河の滝

平成 25 年度氷壁講習会は、平成 25 年 1 月 19 日～20 日層雲峡銀河の滝で行われた。参加者は札幌 2 名、滝川 2 名、網走 1 名、斜里 3 名から男女合わせて 8 名の参加者と 3 名の講師の合計 11 名。29 歳から 76 歳までの幅広い構成で行われた。

19 日は、滝下部の中央左寄りに 3 本のトップロープを張り、足捌きやアックスの振り方をはじめとした基本動作を行う。クライミング自体が初めての人もいて、経験者と共に果敢にトレイしていた。夕方の机上講習では、レジメの図解を見ながら動作のおさらいや、支点の構築の仕方などを中心に講習が行われ、その後夕食・懇親会へと続いた。

翌日は、昨日のおさらいを行った後、トップロープ状態でのリード練習などを行い 12 時過ぎに終了。他のグループも多くなく、小規模で充実した講習になった雰囲気だ。

(報告 海外登山委員長 工藤 寛)



第 51 回日山協海外登山研究会 2/23-24 東京都八王子市

平成 25 年 2 月 23-24 日に東京・八王子の大学セミナーハウスにおいて、日本山岳協会の第 51 回海外登山技術研究会が行われた。

13 時過ぎ、日山協神崎会長の挨拶に始まり、17 時半まで海登研の「50 年を振り返る I」と題し、3 氏の発表が行われた。会長は自分自身が国際部長だった頃から登山者が代わり、登山スタイルが変わり、日山協も変わると、表題を含めた国際交流を行ってきたことを振り返られた。

1963 年の第 1 回発足当時は J A C と共催で、その後日山協の組織再編などで主催が日山協に変わったことや、場所を代えネパールやヒンズークシュの研究についての議論などが交わされ、海外登山に向けて精力的に活動していた。という創立から第 15 回までの間の話を J A C の松田雄一氏が行った。1978 年の第 16 回から 86 年の第 24 回について「大衆化と先鋭化・二極分化の時代」として、原 真のアルパインスタイルや、小西政継の 8 千 5 百 m 級峰の無酸素登山、登山解禁エリアの拡大とバブル景気で海外登山に向かう人が多くなった。などと山森欣一氏が語った。1983 年の第 21 回から 92 年の第 30 回について「A P ・無酸素・冬の時代」として、群馬岳連の厳冬期サガルマータ南西壁への流れを八木原罔明氏が語った。

この後、高所医学の流れとなり、低圧・低酸素下での継続トレーニング、富士山頂に二泊滞在などが高所登山に有益であることや、腎臓からの酵素 ACE 遺伝子タイプを見てみると、ACE の活

性が中程度の人が高所登山の登頂者に多く見られる。血液がサラサラな方が高所ではいいので、造血剤は逆効果だ。などと浅野勝己氏が発表した。以上で一日目が終了。

翌日は「50周年を振り返るⅡ」と題し、2氏の発表が行われた。1993年の第31回から2002年の第40回までについて、「高所遠足と環境の時代」として、中高年の8千m級のピークハントやガイド登山の台頭、高所登山者の増加などによる環境悪化を機に、テイクイン・テイクアウトの提唱と実践が行われる流れになってきた。また、悪しき推薦状も廃止されてよかった。などを尾形好雄氏が語った。2003年の第41回から今年の第50回について「新しい潮流の時代」として、登山者のスタイルの変化に対応し、日山協も呼応し、海外登山奨励金交付やイギリス登山評議会のクライマーズ・ミーティングへのクライマー派遣、国内有志によるウインター・クライマーズ・ミーティングへの協賛、海登研での海外クライマーを招聘したりしてきた。しかし、今後はいかに次の世代の登山者を育て、すそ野を広げていくかが課題となっている。と加藤富之氏が語り「振り返る」は終わった。

10時半からは「平成23年度海外登山奨励金交付登山隊の報告」としてGIRIGIRI BOYS アピ登山隊2012の鳴海玄希が南面に挑戦するも、天気やルート状況が悪く5400mで敗退した報告を行った。

その後、池田常道氏の「2012年世界の主要クライミング」報告があり、今冬もパキスタンの8千m峰に挑戦がされているなどを紹介し、昼ごろ解散となった。（報告 海外登山委員長 工藤 寛）

日山協競技委員会北海道ブロック研修会 2/16-17 深川市

平成24年度の日山協競技委員会北海道ブロック研修会は、2月16日～17日の二日間、深川市の道立青年の家で実施された。日山協認定研修担当の寺内丈行、佐藤 豊両講師によるクライミングC級審判認定研修（受講者7名）と国体競技運営研修・運営員認定研修（受講者8名）が行われ、認定研修では国際競技会規則、実技研修などと筆記試験。運営研修では第67回岐阜国体報告、第68回東京国体からの変更点、競技規則集の内容確認などを研修した。

第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 12/22-23

JFA ユース日本選手権遠征 3/29-4/1

◎第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会は、平成24年12月22日～23日埼玉県加須市民体育館で、全国から選抜された男子94名（団体27校）、女子74名（団体22校）が参加して開催された。

北海道代表選手は、第11回スポーツクライミング北海道選手権大会で選抜した5名が参加。個人戦男子では、菅原宏介（遠軽高）12位、森谷良太（遠軽高）46位、同女子は、佐々木里穂（北海学園札幌高）14位、橋本菜稀（遠軽高）45位、井上未来（遠軽高）63位、団体戦では遠軽高校が男子団体4位（入賞）、女子14位の成績を収めた。

◎北海道体育協会強化事業によるユース育成は、昨年4月から今年3月まで13回にわたり強化練習・道内合宿を実施している。1月12-13日の強化練習で「JFAユース日本選手権2013」出場の選手選考会が実施され、選考会総合順位順に男子 小山 彬（札幌稲雲高1年）、岸本武蔵（美唄東中3年）、森谷亮太（遠軽高2年）、松浦 凌（遠軽高1年） 女子 小武芽生（札幌宮の丘中3年）、佐々木里穂（北海学園札幌高1年）6選手の大会派遣が決定した。

大会は、千葉県印西市松山下公園総合体育館で3月30日予選、3月31日決勝が行われる。

今後の諸行事

平成 25 年度 日高登山研修所開き (指導員義務研修)

1. 期 日 平成 25 年 4 月 13 日 (土) ~ 14 日 (日)
2. 会 場 北海道山岳連盟日高登山研修所
3. 対 象 北海道山岳連盟加盟会員、加盟会員の友人・知人
4. 参加料 3,500 円 (当日受付) 一泊二食
5. 日 程 4 月 13 日 (土) 4 月 14 日 (日)
12:30 受付 6:30 起床・朝食
13:00 開会式 8:00 下主山 (スキー・スノーシュー)
13:15 研修所内外大掃除 上滝ロック又はスポーツクライミング
14:15 講義 山の栄養学 (生活館) 応急手当グループ研修
16:30 各委員会・指導員総会 13:00 閉会式・解散
18:00 懇親会
6. 携行品 山スキー・スノーシュー・クライミング装備一式、シュラフ、内履き、洗面用具等
7. 申込み 003-0021 札幌市白石区栄通り 1 丁目 7-10-1 日高登山研修所事務局 小林 君枝
Tel&FAX 011-853-5366 Eメール kaichan@olive.plala.or.jp 締切 4 月 8 日 (月)

6 月までの諸行事予報

- 北海道山岳連盟定期総会 5 月 19 日 (日) 札幌市民ホール
- 夏季遭対研修会 5 月 25 日 (土)-26 日 (日) 日高登山研修所
- 登攀研修会 6 月 1 日 (土)-2 日 (日) 室蘭チャラツナイ
- 自然保護委員研修会 6 月 15 日 (土)-16 日 (日) 大滝セミナーハウス
- 沢研修 6 月 29 日 (土)-30 日 (日) 野塚岳

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.68 平成 25 年 4 月 15 日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸 2 条 9 丁目 1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄